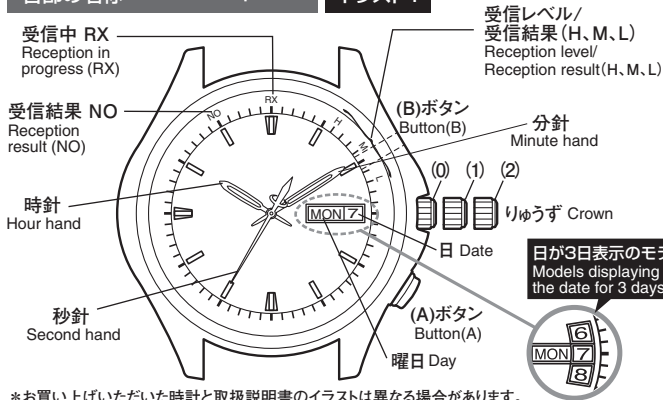
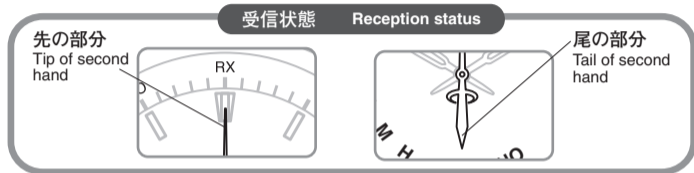
CITIZEN®

取扱説明書

各部の名称 Names of Components

イラスト1

＊お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

* The illustrations shown in this manual may differ from the actual watch you have purchased.

イラスト2 ●モデルによって 受信状態を「秒針の先の部分」で表すものと、「尾の部分」で表すものがあります。
• Depending on the particular watch model, some indicate the reception status with the tip of second hand, while others indicate with the tail of second hand.

＜バンド調整について＞

お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）
バンドの調整は、お買い上げ店または、シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係にて承っております。
その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

＜Band adjustment＞

We recommend seeking the assistance of an experienced watch technician for sizing of your watch. If adjustment is not done correctly, the bracelet may unexpectedly become detached leading to loss of your watch or injury. Consult your nearest authorized Citizen Service Center.

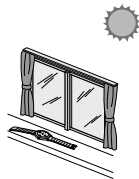
■この時計は日本の標準電波を受信する電波時計です■

この時計は、自動的に電波の強い局を選んで受信する受信局自動選択機能や、毎日午前2時に受信をし、受信ができなかった場合は、再度午前４時に自動的に受信を行い、時刻とカレンダーを合わせる定時受信機能、いつでも任意に電波を受信して時刻と日付を合わせる強制受信機能を備えた電波時計です。

●電波は日本の標準電波のみを受信します。(海外の電波は受信できません)

●電波時計は、人体や医療機器への影響は一切ありませんので、安心してご使用ください。

■十分に光を当てて充電してからご使用ください■

ご使用中に時計の秒針が２秒毎に運針している場合は、充電不足をお知らせしています。『充電時間の目安』を参考に充電してからご使用ください。特に冬場は衣類等で時計が隠れ、光が当たりにくくなりますので、月に一度は直射日光に当てて充電してください。快適にご使用いただくためには、常に充電を心がけてご使用いただくことをおすすめいたします。

この取扱説明書をお読みいただく際は、左ページの時計図を開いた状態でお読みください。

When reading this instruction manual please keep the watch diagram at left folded out and in view.

この時計の修理について

この時計は、バンドを除くすべての修理は「メーカー修理」となります。
修理、点検の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

Repairs

All part of this watch, excluding the band, are to be repaired only at CITIZEN.
Please have all inspections and repairs performed at a Citizen Consumer Help Desk or Customer Support Center.

＜保護シールについて＞

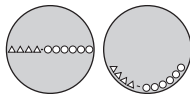
時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

このたびは、シチズンウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

シチズンのホームページ(http://citizen.jp/)でも操作説明がご覧いただけます。また、モデルによっては、外装機能（計算尺、タキメーターなど）が搭載されているものもあり、取扱説明書に記載されていない外装機能の操作も同様にご覧いただけます。

機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む４ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。この番号を「側番号」といいます。側番号の先頭の４ケタが機種番号になります。
図では「△△△△」が機種番号です。

＜刻印の位置の例＞

時計によって表示位置は異なります。

安全にお使いいただくために（必ずお読みください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は、絵表示の一例です。）

⚠	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。
🛇	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

目 次

電波受信

手動による時刻、カレンダーの合わせ方

基準位置確認と修正方法

商品の特長

◎この時計は日本の標準電波のみを受信します。
◎福島と九州の2局から送信される標準電波（時刻情報）を自動的に受信環境の良い局を選んで受信し、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。
◎光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を動かす、光発電機能を持ったエコ・ドライブ電波時計です。文字板に光が当たっていないときに、時計の消費電力を抑えるパワーセーブ機能を備えています。
◎この時計は、海外でのご使用に便利な時差修正機能つきです。
時差のある地域へ行ったとき、現地時刻へ簡単に合わせることができます。

「JIS 1種耐磁時計」、「衝撃検知機能」、「針自動補正機能」という3つの機能を一体化させることによって、衝撃や磁気などの外部要因による針ずれを防止しています。

* JIS 1種耐磁時計とは、日常生活で磁界を発生する機器に5cmまで近づけても時計の性能を維持します。

特殊な構造のボタン／りゅうずについて

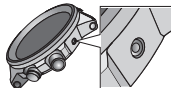
モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のりゅうずやボタンの場合があります。

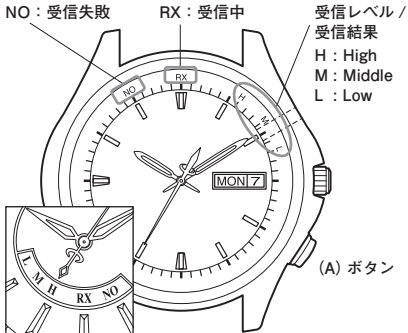
≪ねじロックりゅうず・ねじロックボタンの使い方≫

時計を操作するときは､ロックを解除してください。

	ロックを解除する	再びロックする
ねじロックりゅうず	りゅうずが飛び出すまで、左に回す	りゅうずを押し込みながら右に回し、しっかり締める
ねじロックボタン	ねじを左に回し、止まるまでゆるめる	ねじを右に回し、しっかり締める

≪隠しボタンの使い方≫

ボタンを押すときは､先の細いものなどで押してください。

ご使用になる前にお確かめください

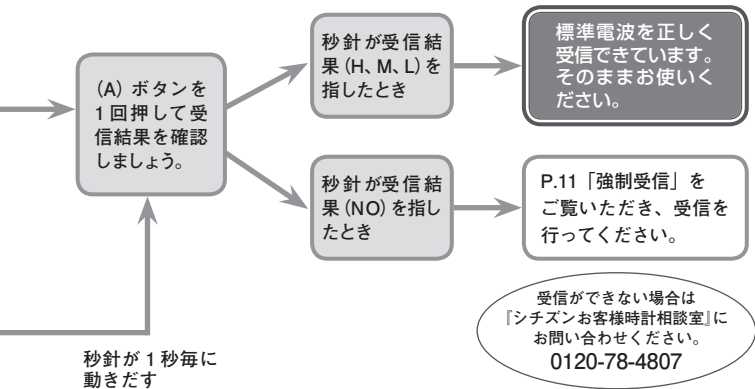
※この取説は、受信状態を秒針の先で表したもので説明しています。

＊お買い上げいただいた時計と
取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

秒針の動きを確認します。

- 秒針が 1 秒毎に動いている
- 秒針が 2 秒毎に動いているか、または止まっている場合

↓

直射日光などを当てて、充電してください。

(A) ボタンを
1 回押して受
信結果を確認
しましょう。
秒針が受信結
果 (H、M、L) を
指したとき
標準電波を正しく
受信できています。
そのままお使いく
ださい。
秒針が受信結
果 (NO) を指し
たとき
P.11「強制受信」を
ご覧いただき、受信を
行ってください。
受信ができない場合は
『シチズンお客様時計相談室』に
お問い合わせください。
0120-78-4807
秒針が 1 秒毎に
動きだす

電波受信について覚えてください

定時受信（自動受信）

送信所の方向については「P.12 受信可能地域の目安」をご覧ください。

・定時受信はボタンの操作など必要ありません。
毎日午前2時に受信を行い、受信ができなかった場合は、再度午前4時に自動的に電波を受信し時刻とカレンダーを合わせます。

《受信の方法》

・時計を腕から外し、9時位置（受信用アンテナ位置）を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

《受信の確認》

定時受信時間以降に受信結果が確認できます。

・(A)ボタンを1回押してください。
・秒針が「H、MまたはL」を指した場合は、受信されたことをお知らせします。
・秒針が「NO」を指した場合は、受信ができなかったことをお知らせします。
「NO」の場合は、強制受信を行っていただくために、次ページをご覧ください。

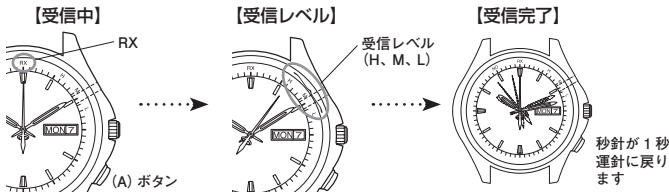
強制受信（手動受信）

＊詳しい受信の仕方は、本文の P.18「受信の方法」をご覧ください。

・いつでも受信ができます。
　受信環境等が変わって、定時受信ができなかった場合に行ってください。

《受信の方法》

・時計を腕から外し、9 時位置を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置き、受信中は時計を動かさないでください。

1. (A)ボタンを約 2 秒以上押し、秒針が RX (12 時位置) に停止したら離してください。
2. その後、秒針が RX から「H、M、L」に移動します。
3. 受信が完了すると、秒針が「H、M、L」から 1 秒運針に戻ります。(最大 15 分)

受信可能地域の目安

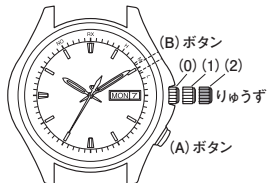
この時計は標準電波の受信局自動選択機能つきです。受信可能地域の目安は次の通りです。ただし、日の出、日の入りの時間帯や季節の変化、天候（落雷など）により、電波状況は変化します。
受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

〈電波送信所〉
・おおたかどや山標準電波送信所（福島局）
・はがね山標準電波送信所（九州局）

日本国内の標準電波はほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。標準電波の送信状態の確認は、情報通信研究所機構・日本標準時プロジェクトのホームページ（http://jjy.nict.go.jp/）をご覧ください。

標準電波は、人体や医療機器には一切影響がありません。

日本に 2 カ所ある標準電波送信所から送信される標準電波は、10 万年に 1 秒の誤差といわれるセシウム原子時計をもとに「独立行政法人情報通信研究機構」により管理運営が行われています。

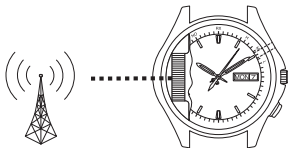
【各部の機能一覧表】

機能	各ボタンまたはりゅうずの操作
強制受信 P.18	(A)ボタンを2秒以上押し、秒針がRXに止まったら離します。
受信結果確認 P.21	(A)ボタンを1回押します。
時差修正 P.27	(B)ボタンを1回押し、りゅうずをそのまま回し、設定後(B)ボタンを1回押します。
手動による ・時刻の合わせ方 P.22	りゅうずを2段引き位置(2)にします。
・カレンダーの合わせ方 P.24 曜日(和英の切り替え) (うるう年からの経過年)	りゅうずを1段引き位置(1)にします。 ＊(A)ボタンを1回押すごとに曜日⇒うるう年の修正⇒日に替わります。

針の動き
秒針が RX に停止し、その後「H、M、L」レベルに移動します。受信レベルを指さない場合は、受信できず通常運針に戻ります。
秒針が「H、M、L」または、「NO」に停止します。
秒針が 12 時位置に停止します。(時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。) 秒針 12 時位置が時差± 0 です。秒針 1 ステップが 1 時間分の時差を表示します。
りゅうず右回転で秒針が時計回りに 1 回転し、分針が 1 分進みます。 左回転で秒針が反時計回りに 1 回転し、分針が 1 分戻ります。 分針・時針を早送りする場合は、りゅうずを素早く連続回転させてください。 ※日が切り替わったときが午前 0 時を指します。
時計が記憶している「うるう年からの経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。 日　：りゅうず右回転で日が 1 日進み、左回転で戻ります。 曜日：(A) ボタンを 1 回押し、りゅうず右回転で曜日が切り替わり、左回転で戻ります。 ※曜日 (英語・日本語) の切り替えは、りゅうず 1 段引きで (B) ボタンを 1 回押します。 うるう年：(A) ボタンを1回押し、りゅうず右回転で秒針が1ステップ進み、左回転で戻ります。

電波受信

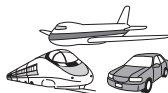
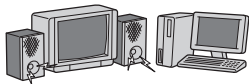
1. 上手に受信するために

この時計は、時計内部に電波受信用のアンテナ(9時位置側)が組み込まれています。上手に受信するためには、時計を腕から外し、時計の9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際などの電波が受信しやすい安定した場所に置き、受信中は時計を動かさないでください。

環境によって受信レベルが変わります。時計の受信レベル「H、M、L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所および、方向を探してください。

2. 受信が困難な場所について

次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では、電波を受信できないことがあります。

◆極端に高温や低温の場所

◆高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く

◆車、電車、飛行機の中

◆テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の電化製品やOA 機器の近く

◆通信中の携帯電話の近く

◆鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下

3. 受信の方法

電波の受信方法は定時受信、強制受信、復活自動受信の 3 つの方法があり、電波を受信するためには、必ず時計を腕から外して受信を行います。
受信が完了すると各針は受信した時刻へ自動的に正転または、逆転で移動し修正されます。

定時受信 （自動受信）

◎時計の 9 時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。毎日午前 2 時に受信を行い、受信ができなかった場合は、再度午前 4 時に自動的に受信を行います。

強制受信 （手動受信）

◎いつでも受信ができます。

手順 1）（A）ボタンを約 2 秒以上押し続け、秒針が高速で「RX」（12 時位置）に停止したら離してください。

手順 2）時計の 9 時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波を受信しやすい安定した場所に置いてください。

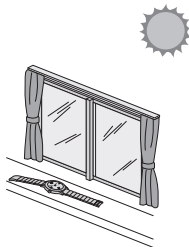
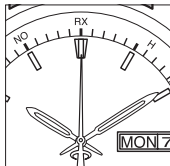
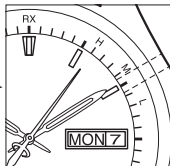
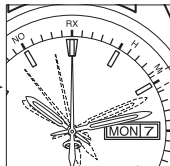
・その後、秒針が「RX」から受信中を示す「H、M または L」に移動します。

・受信が完了すると、秒針が「H、M または L」から 1 秒運針に戻ります。

「3. B 受信結果の確認方法」(P.21) にて確認ができます。

復活自動受信

◎充電不足で時計が止まった後、時計に光を当てて十分に充電すると、一度だけ自動的に受信を行います。充電不足にならないよう、常に充電を心がけてご使用ください。

＊受信中は各針を停止させた状態で、電波を受信しています。
受信中に時刻を確認したい場合は、(A) ボタンを 2 秒以上押して、受信をキャンセルしてください。各針は受信する前の時刻表示にもどります。

A. 受信中の秒針の位置

◆秒針がRXに移動し停止します。

◆秒針がRXから受信レベル「H、M、L」に移動し受信をはじめます。

◆正しく受信した場合は、秒針が1秒運針に戻り、各針が自動的に正しい時刻に修正されます。

〈受信に要する時間〉

当日の天候やノイズ状況により、受信にかかる時間が約 2 分〜最大 15 分かかることがあります。また、秒針が受信中 (RX) を指し続け「H、M、L」に移動しない場合、約 60 秒で通常表示に戻る場合があります。

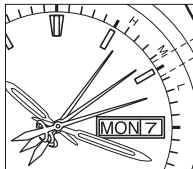
注 意 受信中に受信局が切り替わったり、環境変化等によって途中電波が遮られ、秒針が 1 回転し、再度受信レベルを指すことがあります。1 秒運針するまでは時計を動かさないでください。

B. 受信結果の確認方法

◎受信に成功したか、失敗したかを確認することができます。

手順 1）（A）ボタンを 1 回押すと、秒針が高速で「H、M、L または NO」のいずれかに移動し、受信結果を表します。

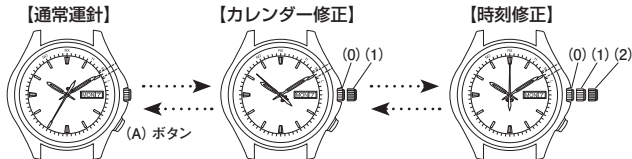
手順 2）受信結果を 10 秒間表示した後、自動的に通常運針に戻ります。
または、表示中に（A）ボタンを 1 回押すと 1 秒運針に戻ります。

・「NO」を指した場合は、受信しやすい場所および、方向を探して再度「強制受信」を行ってください。

「H、M、L」は受信レベルを指すものであり、性能には影響はありません。

受信レベル	受信中レベルおよび受信結果
H	受信環境が非常に良い状態で受信中または受信したとき
M	受信環境が良い状態で電波を受信中または受信したとき
L	受信環境が良くない状態で電波を受信中または受信したとき
NO	受信に失敗したとき

《電波を正しく受信しても、受信環境や時計内部処理により、時刻表示にわずかなずれが生じます。》

4. 時刻の合わせ方

この時計は電波を受信すると、自動的に時刻、カレンダーが修正されますが、海外など電波が届かない地域でご使用される場合は、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域に戻った場合は、定時受信、または強制受信を行ってください。

◆月、年（うるう年からの経過年）、日と曜日の修正ができます。

◆分針、時針の修正ができます。

◎カレンダー修正の「月と年、日、曜日」モード選択は、(A) ボタンを 1 回押すごとに切り替わり、りゅうずを回すことによって修正できます。

《時刻修正の手順》

手順 1）りゅうずを 2 段引き位置（2）にします。

・秒針が 12 時位置まで高速運針し、停止します。

手順 2）りゅうずを回し「分針、時針」を合わせます。

1. 右に回すと（1 クリック）、秒針が時計回りで 1 回転し、分針が 1 分進みます。

2. 左に回すと（1 クリック）、秒針が反時計回りで 1 回転し、分針が 1 分戻ります。

・りゅうずを連続回転（2 クリック以上）させると秒針、分針、時針が連続 12 時間運針します。

・連続運針を停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注 意 日が切り替わったときが午前 0 時です。午前、午後に注意してください。

手順 3）時報などに合わせて、りゅうずを通常位置に戻して、時刻修正を終了します。

5. カレンダーの合わせ方

《カレンダー修正の手順》

手順 1) りゅうずを 1 段引き位置 (1) にします。

・カレンダー修正状態になり、時計が記憶している「月」と「経過年」の位置に秒針が移動し、停止します。

手順 2）りゅうずを回し「日」を合わせます。

1. 右に回す (1 クリック) と、日が 1 日進みます。
2. 左に回す (1 クリック) と、日が 1 日戻ります。

手順 3）(A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回し「曜日」を合わせます。

1. 右に回す (1 クリック) と、曜日が進みます。
2. 左に回す (1 クリック) と、曜日が戻ります。

・曜日の英語⇔日本語の切り替えはりゅうず 1 段引き位置 (1) で、(B) ボタンを 1 回押すごとに替わります。

手順 4）(A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回して、うるう年からの経過年を早見表から読み取り「月」と「経過年」を合わせます。

《秒針による月と年（うるう年からの経過年）の見方》

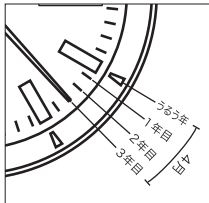
☆秒針が指す「月」の見方

秒針が 1 時と 2 時の間　：1 月
秒針が 2 時と 3 時の間　：2 月
：
秒針が 12 時と 1 時の間：12 月

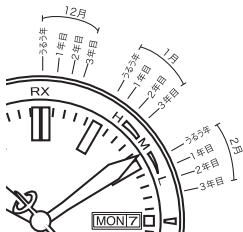
〈例〉

経過年 3 年目の 4 月の場合

うるう年からの経過年を経過年早見表から読み取ってください。

・23 秒（4 時と 5 時のゾーン）の位置に秒針を合わせます。

《うるう年からの経過年早見表》

年	経過	年	経過	年	経過
2014	2 年目	2018	2 年目	2022	2 年目
2015	3 年目	2019	3 年目	2023	3 年目
2016	うるう年	2020	うるう年	2024	うるう年
2017	1 年目	2021	1 年目	2025	1 年目

（2100年2月28日まで）

☆秒針が指す「経過年」の見方

うるう年：秒針が各月のゾーンの最初の目盛り
うるう年からの 1 年目：秒針が各月のゾーンの 1 目盛り目
うるう年からの 2 年目：秒針が各月のゾーンの 2 目盛り目
うるう年からの 3 年目：秒針が各月のゾーンの 3 目盛り目

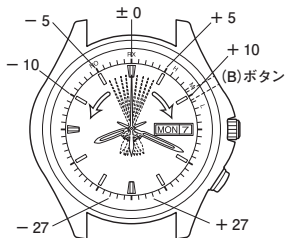
手順 5）うるう年からの経過年早見表より本年は何年目かを確認し、りゅうずを右に回して（1 クリック）、「月」と「経過年」に対応した位置に秒針を合わせます。左に回すと（1 クリック）、秒針が逆転します。

手順 6）りゅうずを通常位置に戻して、カレンダー修正を終了します。

・りゅうず 1 段引き位置（1）で、（A）ボタンを 1 回押すごとに、修正する日、曜日や秒針が動き、修正するモードをお知らせします。

モデルによって、日が3日分表示されている時計があります。
このモデルでは、うるう年、小の月（2 月、4 月、6 月、9 月、11 月）においては3日分、正しく表示されません。

6. 時差修正の方法

時差がある地域に行ったとき、秒針を操作することで、現地の時刻に1時間単位で時差を設定することができます。

（例）香港は日本を基準にした場合、
－１時間の時差があるので、
秒針を 59 秒位置に合わせます。

手順1)(B)ボタンを1回押すと、秒針が12時位置に停止し、秒針12時位置が時差±0時間です。

・時差設定されている場合は、時差分の位置で停止します。

手順2)りゅうずを引き出さない状態で、右に回すと（1クリック）、秒針1ステップで時差を＋1時間の設定ができます。左に回すと、秒針1ステップで－1時間の設定ができます。

・秒針12時位置が日本時間です。日本時間を標準に"±27時間"まで時差設定ができます。

手順3)時差設定後に（B）ボタンを1回押すか、何も操作しないで60秒経過すると、高速で時差設定時刻を表示後、1秒運針に戻り時差修正が終了します。

7. 針自動補正機能（針の基準位置自動補正機能）

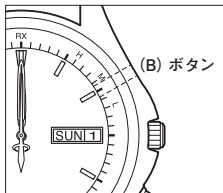
針自動補正機能（針の基準位置自動補正機能）とは
針の基準位置が適正であるか、一定時間毎に針位置をチェックし、ずれを検出した場合は自動的に秒針、分針、時針を高速で補正し、正しい時刻を保持する機能です。

衝撃検知機能とは
時計が衝撃を受けたときに、秒針、分針、時針のずれを防ぐ機能です。

・万一、強い衝撃や磁気、静電気などの環境におかれた場合は、受信をしても正しい時刻を表示しない場合があります。基準位置を確認してください。
次ページの「基準位置確認方法」をご覧ください。

8. 基準位置確認方法

電波時計は、針の基準位置「0 時 0 分 0 秒」と日「1 日」、曜日「SUN」をもとにして、受信した標準時刻やカレンダーを表示します。

◎基準位置が正しく表示されるか確認してください。
りゅうずは通常位置のまま、(B) ボタンを約 5 秒以上押し続け、秒針が正転または逆転で動きはじめたら離します。すべての針および、カレンダーが高速で運針し、時計の記憶している基準位置で止まります。

・最大約 7 分かかる場合があります。

正しい基準位置の表示
時刻：0 時 0 分 0 秒
日　：1 日
曜日：SUN

正しい基準位置の表示以外の場合は、次ページの「基準位置の手動修正方法」をご覧ください。

※基準位置が合っている場合は、(B) ボタンを押すか、そのままで 2 分たてばもとの時刻にもどります。

9. 基準位置の手動修正方法

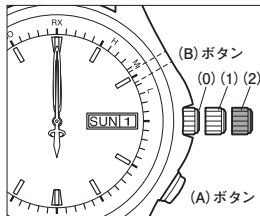
時刻「0 時 0 分 0 秒」、日「1 日」、曜日「SUN」以外を表示した場合は、基準位置修正を行ってください。

≪時針、分針、秒針、カレンダー（曜日、日）の基準位置修正方法≫

手順 1）(B) ボタンを約 5 秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離し、運針中にりゅうずを 2 段引き位置 (2) にし、時計の動きがすべて止まるまで、そのまま待ちます。

手順 2) りゅうずを回して日を「1」に合わせます。

1．りゅうずを右に連続回転(2クリック以上)させると、日が連続で切り替わり、左に連続回転で戻ります。

・連続切り替えを停止させる場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

2. 文字板窓枠の中心に「1」が見えたら、りゅうずを左右どちらかに回し停止させます。

・(A) ボタンを 1 回押すごとに修正する日、曜日や秒針が動き、修正するモードをお知らせします。

手順 3）(A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回して曜日を「SUN」に合わせます。

・りゅうずを右に連続回転 (2 クリック以上) させると、曜日が切り替わり、左に連続回転で戻ります。

手順 4）(A) ボタンを 1 回押し、りゅうずを回して針を「0 時 0 分 0 秒」に合わせます。

1. りゅうず右回転 (1 クリック) で、秒針が高速で 1 分進み、左回転で戻ります。

2. 連続回転 (2 クリック以上) させると、秒針が高速に回り、連動している分針、時針が連続運針します。

手順 5）基準位置合わせ後、りゅうずを通常位置に戻し、(B) ボタンを 1 回押すと各針と日、曜日が高速で現在時刻およびカレンダーに戻ります。

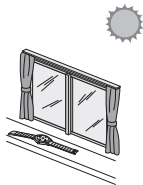
・これで基準位置合わせは終了ですが、現在時刻にならない場合は、「強制受信」を行い、正しい時刻に合わせてからご使用ください。

10. 充電について

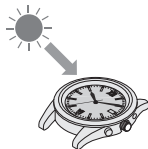
この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。
一度充電完了すると、約6カ月間時刻を刻み続けます。

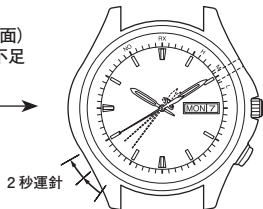
〈この時計の上手な使い方〉

この時計を快適にご使用いただくためには、常に明るい場所での保管を心がけてください。

◆時計を外したときも、時計の文字板に太陽光が当たる、窓際等の明るい場所に置くように心がけると、常に充電を続け時計は動き続けます。

◆充電は、文字板に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。
また白色 LED での充電も可能です。

◆日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
月に一度は直射日光を当てて、5～6時間充電されることをおすすめします。

注意 ▶ 車のダッシュボード等の高温になる場所での充電は避けてください。

11. エコ・ドライブ特有の機能について

◎この時計は、充電不足になると表示が次のように切り替わります。

*1. 充電不足で停止した場合
光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約 30 分かかります。
それ以降も「充電時間の目安」を参考に、十分充電を心がけてください。

*2. 復活自動受信に失敗した場合
1 秒運針をしていても時刻がちがっているため、充電完了後、強制受信または、手操作で時刻を合わせてからご使用ください。

A. パワーセーブ機能

文字板に光が当たらない状態が続きますと、時計の一部が止まりパワーセーブ（節電状態）になります。

機　　種	H100・H106	H10A	H10B
パワーセーブの待機時間	90 日	7 日	7 日

＊時計内部では常に時刻を刻んでいます。

パワーセーブ解除後は、（A）ボタンを 1 回押して受信結果を確認してください。受信結果が「NO」の場合は、強制受信を行ってからご使用ください。

〈パワーセーブの解除方法〉

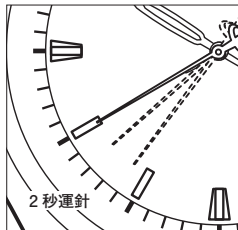
文字板に光を当てると、パワーセーブが解除されます。

・パワーセーブが解除されると、各針が高速で現在時刻に戻り、1秒運針になります。
・充電不足の場合は、2秒運針をはじめます。十分充電をし、1秒運針に戻してください。

注意 りゅうず、または、ボタン操作ではパワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

B. 充電警告機能

秒針が１秒運針から２秒運針に切り替わり、充電不足になったことをお知らせします。
２秒運針をはじめてから、光が当たらない状態が約２日以上経過すると、時計は止まります。

注意 ２秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

◆「受信」「受信結果の確認」「時差修正」「基準位置の確認 / 修正」の最中に充電不足が発生すると、自動的に操作を中断し操作前の時刻に戻り、２秒運針をはじめます。
充電不足にならないように、常に充電を心がけてください。

C. 過充電防止機能

どんなに充電しても二次電池や時間精度、機能、性能等に影響をおよぼす
心配はありません。

文字板に光が当たり、充電が完了すると、それ以上は充電されないように
自動的に過充電防止機能が働きます。

D. 充電時間の目安

※連続して照射した場合の数値です。目安としてご利用ください。

環　境	明るさ (lx、ルクス)	充電時間(約)		
		通常に動く状態を１日保つ	時計が停止してから通常に動き出すまで	時計が停止してから充電完了まで
屋外(晴天)	100,000	5分	40分	16時間
屋外(曇天)	10,000	12分	1.5時間	40時間
30W蛍光灯の20cm下	3,000	40分	3時間	150時間
屋内照明	500	4時間	14時間	920時間

* 秒針が２秒運針している場合も、"時計が停止してから充電完了まで" の時間を参考に、十分充電してください。

〈十分に充電されている場合〉

機　　種	H100・H106	H10A	H10B
持続時間	約6カ月		
パワーセーブ作動時	約1年間	約2年間	

E. 取り扱い上の注意

《時計は常に充電を心がけてお使いください》

●日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。

●時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

《二次電池の交換について》

●この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。
ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり二次電池の容量が早くなくなります。定期的な分解掃除（有料）をおすすめします。

故障かな？と思ったら

《電波受信機能について》

故障かな？と思った時は、以下の項目をご確認ください。

状　況	確　認	対 処 方 法
受信を開始しない。	・秒針が「RX：受信中」に移動しますか？	・(A) ボタンを押し続け、秒針が「RX：受信中」位置を指したら、指を離してください。
受信はできるが、時報等の時刻と合わない。	・基準位置が正しくセットされていますか？ 基準位置の確認をしてください。 P.29	・基準位置が正しくない場合は、**「基準位置の修正方法」**をご参照し、合わせ直してください。 P.30

状　況	確　認	対 処 方 法
受信できない。 （受信可能地域内で）	・電波をしゃへいする物やノイズを発生する物が近くにありませんか？ ・窓から遠い場所で受信していませんか？	・電波をしゃへいする物や、ノイズが発生する物を避けて、時計の９時位置を送信所に向け受信してください。 場所、方向、角度を何度か変えて窓際の受信しやすい場所を探してください。 P.16
	・受信中で秒針が「RX」または、「H、M、L」を指しているときに時計を動かしていませんか？	・受信が終了するまで（通常運針にもどるまで）時計を動かさないでください。 （受信にかかる時間が約２分〜最大13分かかることがあります）

《エコ・ドライブについて》

状　況	確　認	対処方法
・秒針が2秒毎に動いている。 ・時計が止まってしまった。 ・充電しても動かない。	・十分に太陽光に当てていましたか？	・充電時間の目安を参考に十分に充電を行なってください。 P.40 ・充電したにもかかわらず動かない場合は、弊社お問い合わせ窓口にご相談ください。 P.60
・時計を机やタンスなどから出した瞬間に、針が早送りされる。		・光が当たったことにより、パワーセーブ（節電状態）が解除され、現在の時刻まで早送りされたためです。そのままお使いください。 P.36

受信困難なお客様へ

受信に関しては、そのときの気象状況や電波環境の影響を受けます。
『電波受信』をお試しいただいても、受信に成功されないという方には、電波送信所からの電波進入方向を示した地図をお作りするなどのサポートをしています。
受信が困難なお客様は『シチズンお客様時計相談室』へお問い合わせください。
なお、お客様からお預かりした個人情報は、受信に関するサポートのみ使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

お取り扱いにあたって

⚠ 警告　二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠警告　指定の二次電池以外は使用しないでください

・この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

⚠ 警告　防水性能について

- 時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図を参照して正しくご使用ください。（1 bar は約 1 気圧に相当します）
- WATER RESIST (ANT) xx bar は W.R. xx bar と表示している場合があります。
- 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- 日常生活用防水時計（3 気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。

名　称	表　示 文字板または裏ぶた	仕　様
非防水時計	―――――	非防水
日常生活用防水時計	WATER RESIST (ANT)	3 気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST (ANT) 5 bar	5 気圧防水
	WATER RESIST (ANT) 10/20 bar	10 気圧防水 20 気圧防水

・日常生活用強化防水時計（5 気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスキューバ潜水などには使用できません。
・日常生活用強化防水時計（10 ／ 20 気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

	使用例				
	水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
	×	×	×	×	×
	○	×	×	×	×
	○	○	×	×	×
	○	○	○	×	×

⚠ 注意　人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意　使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置) でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。

- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
  - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
  - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
  - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど）が外れる危険があります。

⚠ 注意　携帯時の注意

<バンドについて>

- 皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。（脱色、接着はがれ）また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
  - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
  - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）
  バンドの調整は、お買い上げ店または、シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

＜温度について＞

- 極端な高温 / 低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

＜磁気について＞

- アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。
  磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜ショックについて＞

- 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

＜静電気について＞

- クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜化学薬品・ガス・水銀について＞

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

＜保護シールについて＞

- 時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

⚠ 注意　時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。
- 汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド（ゴムバンド）は水で汚れを洗い落としてください。
  金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。
この塗料は太陽光や室内照明（白熱灯を除く）などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

製品仕様

1. 機種：H100・H106・H10A・H10B
2. 型式：アナログソーラーパワーウオッチ
3. 時間精度： 非受信時（電波を受信していないとき）平均月差 ±15 秒
   常温（＋ 5℃～＋ 35℃）携帯時
4. 作動温度範囲：－ 10℃～＋ 60℃
5. 表示機能： ・時刻：時、分、秒
   ・カレンダー（曜日・日）
6. 付加機能： ・電波受信機能（定時受信、強制受信、復活自動受信）
   ・受信局自動選択機能（日本標準電波専用）
   ・受信中表示機能（RX）
   ・受信中レベル表示機能（H、M、L）
   ・受信結果確認機能（H、M、L）または（NO）
   ○ JIS 1 種耐磁
   ○衝撃検知機能
   ○針自動補正機能

・時差修正機能
・基準位置確認 / 修正機能
・光発電機能
・パワーセーブ機能 (節電)
・充電警告機能 (2 秒運針)
・過充電防止機能

7. 持続時間：充電完了後、充電しないで時計が停止するまで

機　　種	H100・H106	H10A	H10B
パワーセーブが作動しているとき	約１年	約２年	
パワーセーブが作動していないとき	約６カ月		
充電警告表示〜充電不足で 時計が停止するまで	約２日		

8. 使用電池：二次電池（ボタン型リチウム電池）1個

※製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービスについて

<保証について>

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は時計の機能を維持するための修理用部品を、通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・プッシュボタン・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

<ご転居・ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

＜定期点検（有償）について＞

- 防水性能について

  防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に永くご使用いただくために 2 ～ 3 年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキングなどの交換をご依頼ください。

- 分解掃除（内装修理）について

  腕時計を永くご愛用いただくには分解掃除（内装修理）が必要です。歯車などの部品は永くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として 5 年に一度の分解掃除のご依頼をお勧めします。

＜修理について＞

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

＜その他お問い合わせについて＞

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問合せ窓口へご相談ください。

HAR02 ⑦

CT040

CT042

CT067

CT076

EX037

http://citizen.jp/

Cal.H100
Cal.H10A
Cal.H10B
Cal.H106